

フォトシティさがみはら

これは、市民が写真文化により親めるよう実行委員会が編集・発行するものです。

TOPICS



子ども写真教室は、フォトシティさがみはらを構成する大切なイベント。子どものときから写真文化に触れることで、情操を高め、考える力を育もうと、毎年、市内公立小学校の子どもたちに撮影技術を指導する撮影会と写真講評会を行います。令和6年度は市立富士見小学校4年生を対象に6月に実施。その写真作品は、10月開催のプロの部等受賞者作品展と同じ会場同じ期間に展示する予定です。

写真を見る？ 読む？ そして撮る？！

子ども写真教室の進化が深い！



富士見小学校は全学年がひとつの昇降口を利用します。昇降口を通ると目の前には吹き抜けの大きな空間が広がり、大きな階段は、まるでホテルのロビーのようです。この空間を利用し、4年生の1クラスずつ4日間にわたり、子ども写真教室のワークショップと撮影実習を開催しました。

今年の写真教室は、新しい試みと読む講師●萩原義弘さん(円内)

さがみはら写真新人奨励賞第1回受賞者。

フォトシティさがみはら実行委員会メンバー。2023年からアマの部審査員。現在、日本大学芸術学部写真学科非常勤講師。



して撮影にとりかかる前に「写真を読むワークショップ」の時間を持つことにしました。写真は撮る力と同様に見る力も大事です。撮る側と見る側とで創りあげる表現とも言えます。



2007年よりフォトシティさがみはら実行委員会メンバー。アマゾンやアフリカなどで撮影・取材後、

現在は身近な自然を中心に取材を続ける昆虫写真家。

読む講師●安川源通さん(円内)

このワークショップの案内役をつとめたのは、フォトシティさがみはらの実行委員の3人。萩原さんがご自身が撮影した風景の写真、安川さんもご自分の昆虫写真作品を挙げて、何が写っているか、どんなふうに撮影したか、を子どもたちの想像力に問いかけます。お手伝いの大学生スタッフも、子ども

たちの自由な発想の発言にびっくり。田嶋さんはこれまで受賞写真を目の不自由な方と一緒に見る体験を重ねてきて、障がいの有無を越えて写真が理解できることを語り、中学生が

つくった写真ガイドを紹介し、「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク所蔵の写真を見ないで見る、見えない人にガイドする、ということにチャレンジしてもらいました。

いずれのワークショップも子どもたちの真剣さがひと際心に残りました。

読む講師●田嶋いづみさん(ディスプレイの横)

2006年の水俣病を記録する桑原史成さんのさがみはら写真賞受賞を機に、2007年よりフォトシティさがみはら実行委員会メンバー。「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク代表。



子どもたちの感想

Q「写真を読む」はどうでしたか？ ⇒ こどもたちのアンケート回答から抜粋

つまらなかった 2人

写真について学べた 64人

新しい発見があった 44人

面白かった 21人

1まいのしゃしんにこんなにもはっけんで
きることがあるなんてとおもいました。
写真のとりかたでちがうというのが分
かった / せつめいやいろいろなやりか
た / 新しい発見があって楽しかった。
一まいのしゃしんでばしょをかながえたり
どうしてこうゆうものがあるのかか
ながえられる。 / 分からないことが
あるから / 写真をとって見るだけ
でなく「読む」というみ方もあ

るから / 写真を見る物だと思っ
たけど、読むことがあるのがよく
分かった / 「写真を読む」って
いうのかしらなかったからは
けんになった / いままででない
ことだから / 写真をもっとし
れたから / いろいろな見かた
があるから / 「写真から読みと
る」新しい発見 / 写真は「見る」
ものと思っていたから / 目が
見えない人の写真の楽しみ方
をしれたから / 写真をことば
でつたえるこ

とができることを / そんなにくわしく
考えなかつたから。 / 目が見え
ない人も写真が楽しめる / 写
真を読むことをはじめて知
ったから。 / 目が見えない
人の写真の知りかたを知
れた。 / 目が見えない
人に写真が分かるように
工夫していたから。 / 写
真は「読む」が新しい
発見につながりました /
しゃしんはよむ物だとは
しなかったから / 写
真を読むことをし
らなかった

DOCUMENT! 記録!

EXPRESS! 表現!

MEMORY! 記憶!

相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会
事務局：相模原市文化振興課 TEL 042-769-8202